

人工関節以外の治療

✓ 保存治療

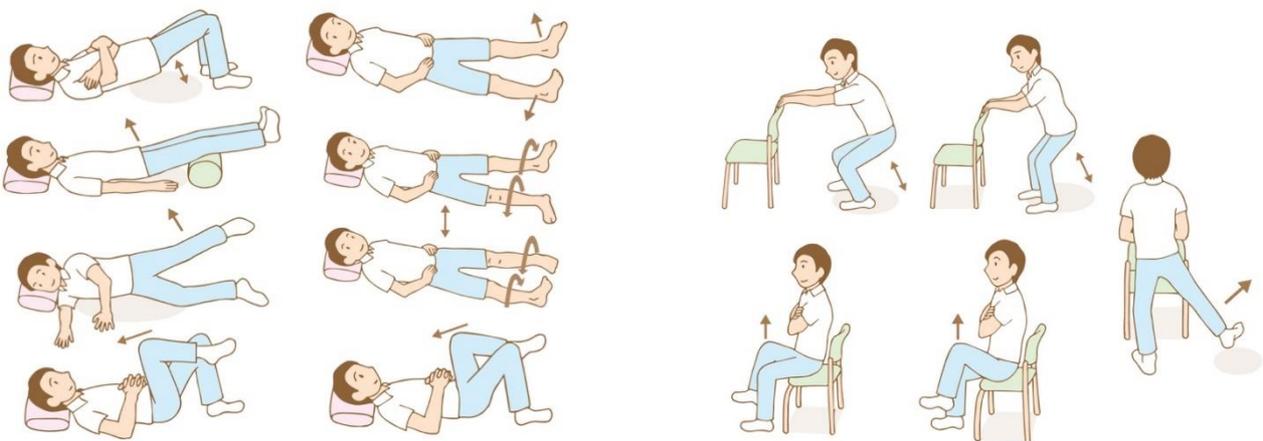
主として前期から初期股関節症（変形が進行していない状態）

- 薬物療法：局所の炎症を抑え、痛みを緩和させる

鎮痛剤、坐薬、湿布など

- 理学療法（運動療法）：股関節の機能を維持するとともに痛みを緩和させる

股関節周囲の筋力増強訓練やストレッチなど



- 浮力のかかる水中での運動は、関節にかかる負担を減らすことができます
- 生活習慣の見直し：普段の生活で股関節にかかる負担を減らす
 - 体重コントロール（今よりも少しダイエット）
 - 痛い時は無理に歩いたり、階段を使いすぎないようにする
 - 時には杖などの補助具を使用する

短期間症状を緩和することはできるが、長期的に変形を遅らせることはできない

✓ 再生医療

- 自分の身体から採取した PRP（多血小板血漿）や増殖幹細胞を関節内に投与する
- 局所の炎症を抑えて痛みを緩和し、機能を回復する可能性がある
- 臨床で使われ始めたばかりで、確実な治療効果、有効期間などが不明確
- 保険診療に該当しないため、自費診療となる

✓ 人工関節以外の手術治療

➤ 股関節鏡手術

対象：関節はほぼ正常だが、スポーツなどの関節唇損傷で痛みがでる場合

FAI によるインピンジメント症状で痛みが出る場合 等

手技：専用のカメラや器具で関節内を観察して損傷部位を修復できる

利点：限局した損傷部位を小さな創で治療することができる

欠点：進行した変形性関節症を治すことは困難

➤ 骨切り手術

対象：臼蓋形成不全や大腿骨頭壊死症など

前期から初期股関節症で若年例

手技：自分の骨使って関節の適合性を改善するための手術

各種方法があるが、原則的には 40 才程度までで軟骨損傷がひどくない場合に適応となる

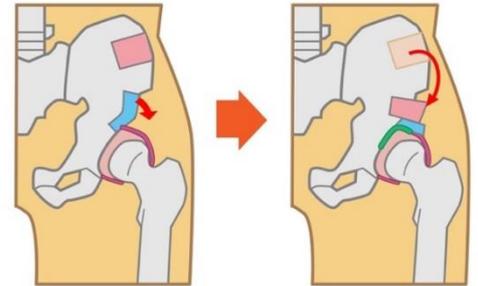
骨切り手術の例

棚形成術

骨盤から板状の骨を採取して、足りない臼蓋に足す手術

比較的侵襲が少ない

臼蓋形成術（棚形成術）



寛骨臼回転骨切り術（RAO）

臼蓋周囲の骨を丸くくり抜き、回転移動させて臼蓋を作る手術

正常に近い関節形態を作ることができる

RAO (Rotational acetabular osteotomy)

